

平成29年度 倫敦日本人学校だより 第11号3月1日

平成29年度のゴールを目指して

校長



やわらかな日差しを浴びて、校庭の草木も春の訪れを待ちわびているようです。まだまだ寒い日が続いていますが、春はすぐそこまで来ています。今日から弥生、3月です。本年度も修了式まであと

約2週間を残す時期となりました。学校では、高校受験を終えて無事に戻った中学部3年生の姿が日毎に多く見られるようになり、音楽室からは卒業式で歌う曲を練習する子どもたちのさわやかな歌声が聞こえてきます。また、小学部・中学部とも、学習や生活のまとめに取り組み、今年度の振り返りを行うとともに進級・進学準備に取り組んでいます。

2月23日には、小学部の「6年生を送る会」がありました。1年生から5年生までの各学年が、これまでお世話になった6年生への感謝の気持ちをこめて歌やダンスなどの出し物を披露しました。また、フレンドリー班で作った心のこもったメッセージカードが6年生に贈られるなど、今年度も思い出に残る素敵な会となりました。

また、3月6日には、中学部の「3年生を送る会」が催されます。1、2年生の各学級は、お世話になった3年生への感謝と高校受験を慰労する気持ちをこめて、旅立ちを祝う出し物の最終準備に取り組んでいます。

子どもたちは、日々の授業や生活の中で、また、運動会や文化祭などの学校行事を通して、この1年間で大きくたくましく成長しました。子どもたち一人ひとりの努力と頑張りを心から称えたいと思います。

年度末の残り少ない一日一日を大切に、子どもたちが「感謝の気持ち」と「前向きな姿勢」をもって、進級・卒業できるように指導・支援に努めてまいります。

最後になりますが、派遣教員のうち10名が今年度末で帰国いたします。それぞれが、学校教育目標の具現化に向け、子どもたちにかかわり、寄り添い、真摯に職務に取り組んでまいりました。保護者の皆様のご理解とご協力、そして温かいご支援に対しまして、心より感謝申し上げます。

上善は水の如し

「上善は水の如し」とは、中国激動の時期を生きた老子の言葉で、理想的な生き方をしたいのなら、水に学べという教えです。

最高の善は水のようなものである、つまり万物に利益をあたえながらも、他と争わず器に従って形を変え、自らは低い位置に身を置くという水の性質を、最高の善のたとえとしており、この水のもつ「柔軟さ」「謙虚さ」「秘めたるエネルギー」の3つを身に付ければ、人間も理想の生き方に近づくことができるという意味です。

子どもたちには、現代のように変化が激しく、先行き不透明な時代であっても、水のように、柔軟かつ寛容な姿勢をもって、争うことなく、あらゆる物に恵みを与えられるような立派な人になってほしいと思います。

